

4. 2018シーズンを振り返って

2018シーズンを振り返って

監督 萩井好次 (H10年卒)



2018年度も多大なご支援を頂きまして誠にありがとうございました。春夏と良い結果が続いていただけて関西リーグ5位という結果は本当に残念でなりません。関西リーグの序盤に僅差で勝ちきれなかったことがこの結果に至った表面的な原因ですが、シーズン後半にかけてチーム全体が失速したことを考えると、やはりコンタクトなどのハードな練習が他大学と比べて不足していたことが根本的な原因になります。

春夏シーズンは一昨年までの貯金で戦えていましたが、結果を意識しすぎるあまりにハードワークを優先できなかったことにとっても悔いが残ります。また一昨年にコンタクト練習で怪我人が多く出てしまったことも練習強度を上げることに躊躇してしまった原因です。山口主将をはじめとする4年生達が本当にやり切って卒業できたのかと思うと、結果以上に大切なことを残してやれなかったことが本当に残念でなりません。

コーチが変わり、トレーナーが変わり、指導体制は数年前とは比べ物にならないくらい充実してきました。また、多くの皆さまのご協力のもと、寮でのトレーニングやメディカルなど生活環境も大幅に向上しています。強化に終わりはありませんが他大学と比べてもある程度遜色のない環境になってきました。

2018年度の反省を次年度に必ず活かし、強い同志社を取り戻せるよう日々精進します。2019年度も引き続き宜しくお願いいたします。

2018シーズンを振り返って

FWコーチ 太田春樹 (H21年卒)



2018年度の活動において、多大なるご支援賜りました、大学関係者の皆様、OB会の皆様、ファンクラブの皆様、厚く御礼申し上げます。

今シーズンは、昨シーズンと同様、開幕戦の敗戦から思うような結果が出ず、大学選手権も2年連続出場を逃し非常に苦しいシーズンになりました。例年より春、夏シーズンの結果が良かったものの、シーズン終盤に向けて尻狭みになったと認識しています。夏以降、私自身が現状に満足しながらコーチングした甘さが導いたと、自責の念にかられております。

敗因はフォワードが大きく占め、年々成長しているものの、他校に比べ劣る部分が多いのが現状です。2019年度も一昨年、昨年度のシーズンの結果に左右されることなく、ハードな練習を継続し、必ず目標を達成できるよう選手とともに精進して参ります。

私自身、同志社大学ラグビー部でコーチ4年目となりますが、引き続きフォワードの強化に努め、部員全員の力を最大限に引き出せるようなコーチングを意識し、チームを目標に導きたいと思っております。

新4回生以下は、一昨年11年ぶりに大学選手権ベスト4の結果を超えられるよう「高い志」を持ち、2年連続で大学選手権に出場できなかった悔しさを忘れることなく、「チャレンジャー精神」で、1日1日を大切に過ごしていきましょう。

卒業生の皆様は、4年間本当にお疲れ様でした。山口キャプテン中心に1年間通してハードな練習に取り組んでくれた事に感謝しています。

同志社大学ラグビー部で培った経験を活かして、新天地でのご活躍をご祈念いたします。環境が大きく変わるのでくれぐれもご自愛ください。

何卒、2019年度も変わらぬご支援賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

2018シーズンを振り返って

BKコーチ 佐藤 貴志 (H16年卒)



同志社大学体育会ラグビー部OBならびに関係者の皆様、2018年度シーズンにおきましても多大なるご支援を賜わり、誠に有り難うございました。深く御礼申し上げます。

私がコーチするにあたって大事にしている哲学を漢字一文字で表すと「個」です。チームは個の集団であり、一人一人が大きく成長することで、強いチームができると考えています。言い換えれば「個」がしっかりしていなければより良いチームはできません。その「個」を高めるためにはコーチが選手一人一人の強みを理解し、それを活かす事が重要です。選手には、「自分の強みは何か？」と常に問いかけています。130人近くいる選手の中で、紺グレのジャージを着る選手は誰にも負けない部分、すなわち「自分の強み」を確立して、自信を持ってグラウンドに立つ必要があります。

自分の強みを持つ事は社会に出ても大切です。主体的に行動し、自分の強みを発揮して社会に貢献できる人材を一人でも多く輩出することは同志社大学ラグビー部の重要な目的の一つと認識しています。

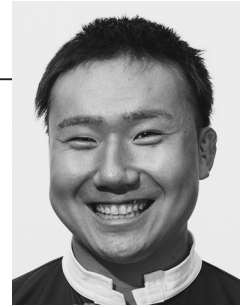
また選手が成長するには「個人のリーダーシップ」が重要です。チームをまとめるリーダーシップだけでなく、自分の目標に向けて、自分を律して、主体的に行動する個人の内にあるリーダーシップも大切にしなければなりません。特に「継続して努力」という部分については選手によって波があった様に思います。来シーズンは選手の個人のリーダーシップを育てる工夫をしながら取り組んでいく事が私の目標です。

2019年シーズンは昨シーズンからの良い部分は継続して強化し、さらに「この部分では他校には絶対に負けない」という強みを持った同志社スタイルを確立して、秋のシーズンに挑みたいと思います。

今シーズンも変わらないご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

2018シーズンを振り返って

前主将 山口 修 平 (4回生・同志社香里)



昨シーズンは熱いご声援と多大なご支援を受け賜わり本当にありがとうございました。

2018年シーズン、主将を務めさせて頂いた山口修平です。シーズンが終わるまで応援して頂いた方々に結果を出して恩返しすることが出来ず、申し訳ない気持ちでいっぱいです。さらに、主将として、1年間チームで取り組んできたことが勝利という形で証明することが出来ず、悔しく感じています。

夏合宿では関東の強豪大学相手に全てのカテゴリーの試合で全勝するという形で終え、確かな自信を持って関西リーグに挑みました。しかし、開幕戦から3連敗してしまい、結果が出せていない時に、何かチームを変えるきっかけを作ることが出来なかったことが自分の力不足であったと痛感しています。

自分たちが叶えられなかった夢を後輩たちが叶えられるように、OBとして4回生一同、同志社大学ラグビー部を支援していきたいと思います。

1年間、本当にありがとうございました。引き続き同志社大学ラグビー部をよろしくお願い致します。

2018シーズンを振り返って

前副将 平 川 隼 也 (4回生・長崎北陽台)



今シーズンも沢山のご声援ありがとうございました。

チーム山口として、『日本一』という目標に向かって1試合1試合戦ってきましたが、結果として皆様の期待に応えることができなかったこと、大変申し訳無く思っております。シーズンを通して、とにかく悔しい気持ちでいっぱいです。しかしながら、チーム山口として、同志社のFWとして試合を重ねるごとに、チーム全体のラグビー理解力、ディフェンス力は確実に自分たちの身になっていると実感しております。スクラムに関しては正直まだまだですが、ラインアウトの精度やモールの理解力、オプションとしての役割など成長できた部分も多くあります。これらを成長で終わらせるのか同志社の武器にするかは後輩達に託します。「負けて学ぶ」という言葉がありますが、負けて学ぶことは最終的には悔しいという気持ちだけです。勝って学ぶことに価値があると思います。これからの同志社は常に戦いに勝って、色々な勝ち方を学んでほしいと思いますし、私自身もOBとして微力ながら強い同志社に貢献できたらなと思っております。

今後とも同志社大学ラグビー部のご声援を宜しくお願い致します。

2018シーズンを振り返って

前副将 永 富 晨太郎 (4回生・東福岡)



2018年度、副将を務めさせて頂きました永富晨太郎です。

昨シーズン、多大なご支援・ご声援を頂きまして誠に有難うございました。

チーム全体で思うような結果が出ず、副将としてチームの為にもっと出来た事があったのではと責任を感じています。

後輩達には、2年間大学選手権に出場できなかったという事実を真摯に受け止め、チーム一丸となり必ず「関西優勝」、そして「日本一」をつかみ取って欲しいと思います。

今後も、同志社大学ラグビー部に温かいご声援を宜しくお願い致します。

2018シーズンを振り返って

前FWリーダー 平 田 洋 輔 (4回生・福岡)



2018年を振り返ってみて、私自身考えさせられることの多い一年だったように思えます。

まず、このチームの発足に当たって私はFWリーダーに任命して頂き、いかにしてチームに貢献するかを考えました。私たちの先輩方の課題だったことをこのチームで活かすことができるように、また、4回生が一致団結するにはどうすればよいかを悩むことは多くありました。

しかし、このチームの一リーダーとして様々な考え行動したことは少なからず部員たちにも伝えることができたと感じています。次に考えさせられたこととして、ほぼAチームの試合に出ることができなかったことが挙げられます。今まで上のチームで出させてもらっていたゆえにどうすれば試合に出られるのかに関して非常に苦悩しましたが、サポートの重要性を改めて痛感しました。雰囲気を作ったり、レギュラーの選手のために質の高い相手になったり、チームが強くなるためにはこのことが大切だと感じることもできたのです。最後にチームの結果が振るわなかったことに関することがあります。シーズン中、特に連敗した時は自分がすべきこと、しなければならないことを考えさせられました。

客観的に今年のチームを見ると結果が思ったようにはいかなかったようですが、私自身もこのように考える機会を多く与えてもらえたとし、部員たちもそれぞれ成長できる機会になったように思えます。その点では有意義な一年だったのではないかと感じます。

今後も、同志社大学ラグビー部へのご声援を宜しくお願い致します。

2018シーズンを振り返って

前FWリーダー 秦 旭 宏（4回生・小倉）



昨シーズンは、関西リーグで思うような結果を出すことが出来ずに、シーズンを終えてしまいました。2年連続、大学選手権へ出場することができず、とても悔しい思いをしました。

同志社大学ラグビー部に入学して大学選手権に出場したのは私が1回生の時だけでした。応援席から見る先輩方の4年間の想いがこもったプレー、試合会場の雰囲気、声援、勝って喜ぶ姿、負けて泣いている姿、何もかもが今でも心に焼き付いています。とても強い先輩方でも「日本一」という目標を達成することはできませんでした。関西リーグのレベルも非常に高く、本当に数少ないチャンスを掴まなければ成し遂げることはできない「日本一」。今年こそはキャプテンの山本雄貴を中心に絶対に成し遂げたいと思います。

最上級生となり、チームの様々な面が見えるようになりました。このチームを良くも悪くも変化させることができるのは、4回生の力だと思っています。逃げることなく、自分たちの目標に向かって日々練習に励みたいと思います。

また、個人としては3年間、秋のリーグで思うような結果を出すことができていません。最後の1年、自分自身を見つめなおし、本当にチームにとって必要不可欠な存在になれるよう、もっともっと強くなりチームを引っ張っていきけるように頑張りたいと思います。

いつも応援・ご支援ありがとうございます。絶対に結果を出して恩返しができるように頑張ります。今年も応援よろしくお祈りします。

2018シーズンを振り返って

前主務 細 谷 直 杜（4回生・茗溪）



2018年度、主務を務めさせて頂きました細谷直杜です。

まず始めに、昨シーズンは、全校各地への遠征、夏合宿での多くの差し入れなど沢山のご支援とご協力ありがとうございました。2018年度シーズンは山口主将の元去年の先輩の雪辱を果たすべくチーム全員で日本一を目指し練習、運営に励んできました。春、夏は殆ど負けなしでしたが秋シーズン蓋を開けてみると苦しい試合の連続でした。結果としては5位。2期連続で大学選手権を逃してしまい悔しいシーズンになってしまい先輩方の雪辱を果たす事は出来ませんでした。

チーム全員で勝つ事の難しさを実感し本当に苦しかったというのが正直な感想です。2後輩達には何が足りなかったのかも一度考え直し日本一という目標に向かって頑張ってもらいたいと思います。

主務として運営に携われて頂きましたがスタッフの方々には本当にお世話になりました。1年間活動する事が出来たのは一緒に活動してきたスタッフの方々がいちからこそだと思っています。本当にありがとうございました。

同志社大学ラグビー部の再興を後輩達は果たしてくれると信じております。今後も応援の程宜しくお願い致します。4年間同志社大学ラグビー部で活動でき幸せでした。

ありがとうございました。

2018シーズンを振り返って

前寮長 青木大峻(茗溪)



昨シーズン、同志社大学ラグビー部に多大なるご支援、ご声援を頂き、ありがとうございました。

寮長と選手という立場から多くの経験をさせて頂きました。選手としてはAチームでの出場機会はなく、チームとしても関西5位という不甲斐ない結果で終わってしまい非常に悔しい一年となりました。しかし、目標に向かっての4回生としての想い、行動は決して無駄ではなかったと考えています。また、寮長としてチームが一つにまとまり、日本一という目標を達成する為の下級生の負担の軽減や上級生と下級生の交流を増やせる環境を整えられるよう心がけてきました。これも多くの方々のサポートがあって行動ができたと考えています。グラウンドでの結果としては出ていませんが、チームのことを考え未熟ながら行動した結果であります。これからは同志社大学ラグビー部での経験をもとに精進し、これまで支えてくださった多くの方々へ恩返しができるよう努力していきたいと思っております。

今後とも同志社大学ラグビー部へのご支援、ご声援のほどよろしく申し上げます。